

令和7年度第3者評価結果

1) 子どもの受容と丁寧なかかわりを大切にしています。

こどもの気持ちに寄り添う姿勢を大切にしています。散歩に行くことを躊躇うこどもがいる場面では、担任だけでなく主任もそばにつき、無理に参加を促さず気持ちが整うのを待つなど、職員同士が連携してこどもの安心につなげています。気持ちを言葉にしづらいこどもには、保育士が代弁したり、ゆっくり言葉を返したりしながらその子のペースに合わせた関わりを行っています。特別な支援が必要な子どもに対しても、状況に応じて職員が寄り添いながら見守る体制があり、個別の記録を丁寧に共有することで、その子にあった環境や関わり方を大切にしています。こうした丁寧な受容的関わりが、子どもが安心して気持ちを出せる土台となっている。

2) 安心して楽しい食事の提供を行っています。

食を通じて、こどもの健やかな成長を支援しています。調理の工夫や多彩な体験活動の提供により、食への興味を引き出しています。個別の喫食状況に基づいた調理改善や、季節感のある献立となるように旬の食材を使ったり、行事食を提供し、世界の料理や郷土料理もメニューに入れて提供し、こどもの好奇心を刺激しています。また、食育の絵本を読んだり、野菜の栽培や皮むきなどの体験により食への関心を深めています。発達段階に合わせた食具の選定や適切な声掛けを継続し、子どもが自発的に食事を楽しむ環境を作っています。

3) 子ども主体の環境構成の構築をします。

安全に配慮した環境づくりを大切にしながら、こどもの主体的な遊びを引き出すことに取り組んでいます。一方で、コーナーの設定が控えめで、広い空間の中で遊びに集中しづらい面があります。また、活動が一斉の流れになることもあり、こどもの興味が次の遊びにつながりにくいことが課題です。安全面との両立を図りながら工夫を重ね、今後は子どもが遊びを選び、継続しやすい環境づくりを検討していきます。

4) プライバシー保護のマニュアルの整備をします。

こどもや保護者が他人から見られたくない、知られたくないプライバシーに配慮した保育を実施しています。プライバシー保護のマニュアルの内容を整備し、職員間で内容を共有していきます。